제4호 1908. 6. 3.

京城藥報

日韓藥業家大會

京城藥報

韓國現時の藥業界を通觀し來れば以て急務となすべきもの蓋し一二にして止まらず對韓政府に望むべき藥制及び藥學教育藥局方の制定等統監府に請願したき藥學藥業上の方針實施等を初めとし衛生上諸般の法律及び實業上より論せば日韓藥品賣藥貿易上の關係販路擴張及び國家的保護の必要賣藥の製造販賣取締規則等眼前に横はる所の問題はこれ皆吾人藥業者の解決を待つべきものにして此等の問題の解決の是非は藥業者の前途に非常なる關係を有するものにして是等問題の解決と實行とは大に研究すべき價値あるものなれば充分精細に攻究すべき問題たり此等の問題の解決にして一朝藥業者に不利あらんか恰も母國に於ける藥品營業並に藥品取扱規則が十數年を費して漸く藥律案となり多少とも改正したる位にして未だ充分藥業者をして滿足せしめざるにあらずや賣藥規則改正これ如何年々歲々改正を附願するも未だ一點の改正なきを如何にせん母國の藥業家は以上二問題の爲め十數年間失敗蹉跌憤慨の言を以て蔽はれつゝあり轉た涙の滂沱たるに堪へざれば在韓、日韓藥業家は藥業の將來を想ふ毎に將に起らんとする各種の問題に對しては非常なる愼重の態度を以て研究するを吾人は切に望まざるべからず

目下韓國藥業界には韓國藥劑師會及び京城藥業組合、仁川藥業組合、釜山藥業組合、龍山藥業組合、平壤藥業組合等なるものありて藥學の爲め藥業の爲め進歩發達を計りつゝあるならんも只獨り韓國藥劑師會は明治三十九年七月設立以來韓國藥學の進歩發達を計り孜々研究し毎月一回學術講演會を開き或は衛生試驗問題につき討議し又は韓國特有の藥品の調査等につき研究し且つ會員各互に親睦を計りつゝあるは實に吾人の多とする處なり殊に進んで日韓藥業家を指導せらるゝに於ておや

飜て實業家たる藥劑商連は如何吾人の寡聞未だ與に日本藥品及び賣藥の爲め販路の擴張和製濫造品の制裁等に付憂ひし藥界人傑ありしを聞かず日韓の藥品貿易は遠く文祿の役前にあり文祿役に小西行長が他諸將に比し其の動作の敏活なりしは彼が夙に藥品貿易上頗る韓國の事情に通じたる爲めなりと云へば相互の藥品貿易は物品交換的に行はれつゝありしを想するに足る其後如何なる情況にて藥品貿易行はしや判明せざるも邦人の習慣として近縣旅行するにも二三の藥品か携帯するに徴せば必ずや渡韓の準備として行李の一隅を少くとも二三の藥品賣藥を携帯せしは疑ふべからざる事實ならん然らば明治十四五年頃より渡韓者ありとせばその頃より日本藥品賣藥の輸入ありしは明らかなり殊に其の當時は韓人等は日本人を見る毎に必ず藥品を持つ人なりと信じ藥品を乞ふに至れり而して日清戰役後に至り韓國に於ける藥業の有望なるを見るや藥業家の渡韓するもの其數を知らず其當時日本藥品賣藥の效能顯著なるを信せし韓人をして充分に日本藥業の神聖を保たしめしなば十有餘年の今日日本藥品は如何に需用多かりしならむに其當時藥業者中一人の前途を憂ふる士なき爲めか奸商等のなすに任せ神聖なる日本藥業の信用を地に落さしめ甚しきは幽靡粉に種々の粉末を混じて與せし事ありと云ふ此等奸商韓全土に徘徊したる爲め日本藥品賣藥の信用を害せしと甚し是等を敎正し日本藥品賣藥の神聖なるを韓國全土一千有餘萬の人士に普く知らしむるは實に容易の業にあらず是れ啻に在韓日本藥業家の起すべきにあらず是れ決して小なる藥界の問題にあらず大は日本帝國國家經濟の上の問題にして母國藥業家の發展に關する問題なれば決して對岸の火事視すべき問題にあらざるなり此等の問題を討究するには一の團体なからざるべからず以上各地に藥業團体あるも如何なる爲めか會務振はず互に藥業家の猜疑反目せるなきにや藥業の前途洵に喜ばしからざる現象なれば日韓藥業互ひに相會同し親睦を計り業務上相談議し盡されんことこそ藥業に忠實とや云はめ熱心とや申されむ韓國藥劑師會は過日來在京の日韓藥業家數十名を招待して一大懇親會を催す計畫中と云へば必ずや吾人の論ずる日韓藥業家の大會となりて非常なる好果を結ばむ吾人は一日も早やく實現せんと希望に堪へざるなり

韓國研究欄

日韓藥品貿易論(四)

在京　筑水生

(三)韓國醫藥學教育の程度

韓人の教育なるものは昔時日本の寺子屋流の教育法にして其校舍とも云ふべきは隨處に存在し之れを書房といひ鷄林八道にありて三万内外あるべく其教師たる人は所謂村夫子にして一堂に廿人乃至卅人の子弟を集合せしめて教授せり其課目は字を習ひ書を讀むに過ずして何も暗誦的にして先生は長き煙管を持ち堂の一隅にありて甚しき眠りて兒童等は交互に堂の一隅にありて字を習き書を讀む情況は一見せざるものをして想像し難からしむ此等は皆上中流の子弟にして下流の子弟は殆ど學ぶものなしと云ふ然るに近時韓國にても漸く新式教育の勃興せんとする氣運に向へり新式教育の學校としては政府によりて始て日英佛獨露の各學校を京城に設立したりしが韓人は比較的語學の材能に長じ其進歩甚だ速にして語學は彼等が最も好んで學ぶ所蓋し外國語は他の科學の如く理解考察の力を要せずして此等外國語を習得すれば直に多少の實利を收め得るの効あれば先づ語學を習得する所以なり其他官立學校として專門學校は目下鑛床調査所技手養成所、普通學校、農林學校、等業傳習所、醫學校等ありて皆本邦人の教鞭を執れるもの多し此等の學校は皆新式の教育法にして日本語教授ありて此等學校卒業生は能く日本語を語り日本文を綴り能く讀む今韓國醫藥學教育の程度如何を尋ぬるには勢ひ現時の大韓醫院教育部の前身たる學部直轄の醫學校を以て本位とし論ずるの適當ならむ同醫學校は光武六七年(明治三十四五年)頃の設立にして京城駱洞に稍々大なる温突附の建物を得て開校したるものにして生徒十五六名乃至二十五六名教官としては日本人豫備陸軍三等軍醫正小竹武次氏主任として韓人を通譯とし講義し其他藥學者曾て我國に留學せし劉世煥氏は日本語及び化學を教授し醫學の通譯をなし曾て日本東京高等工業學校にありし崔某をして數學物理を講せしめ其他尚二三の韓國人教官中にあり別に同校に翻譯室ありて日本醫學書を譯しつゝあるもの今や昨年來解剖學生理學書を譯出したり此れ等は皆教科書として用ひられ居れり而して同校卒業生は今日迄何人なるや明かならざるも毎年毎學期五六名が七八名に過ぎざりしより推察せば三四十名より五六十名ならんと而して其卒業生の多くは陸軍々醫に採用せられしもの二十有餘名ありといふ然るに昨年四月よりして大韓醫院を設立するや今迄の廣濟院赤十字病院を合して治療部とし衛生に關する部を設けて衛生部を設けるや同時に從來の學部の醫學校を大韓醫院教育部と改稱し部長には小竹氏教官を增聘し生徒を募集し一學期五十名とし四ヶ年程度にし完全なる醫學校となし目下盛に馬頭山に教育しつゝあれば必ずや今後の卒業者を出さば完全のものならん其他目下醫術として開業せるものは皆日本留學者なり次に藥學の程度如何と問ふに今日迄全く其教育機關なかりしも來年度より愈々大韓醫院教育部中に醫科と同樣に藥學科設立豫算通過せしと云へは實施も近きにあり、韓國醫藥學教育は今後十數年を待つにあらざれば普及せりと云ふべからず。

學說

色素の鑑別法（禁轉載）

不明の色素を鑑別せんと欲せば先づ其色素の水及び酒精に溶解不溶解を定めざるべからず固有せる色の如何なるを知り而して其色を以て纖維を染試すべし然るには先づ中性溶液にて毛纖維を染め試むべし中性色素は只Saule grün and methylgrünを除くの外皆色を固着し溶液は終に無色となる但し綿色素は絹を試染すべし色素媒染劑なければ染まされば先づ稀硫酸、明礬若しくは鹽化錫を用ゆべし然るときはSaule and alkaria fastoffの固着を知る然れどもAlkaribran and Alkaria grünは色素に混合したる者は之れを粉末となし水若くは酒精を以て濕示せる紙片に薄く布くときは其斑點は所々色を異にす又紙片に其溶液の一滴を滴下するも亦然れり是れ色素の紙距離には夏透する力量なるが故に混合色素は互に別れて固有の色を現はす故に斑點の中央と邊とは色を異にす試料は濃硫酸鹽酸亞硝加里溶汁及び亞鉛なりとす又たアゾ色素には濃厚酸類は多くの色素に一種固有の色を顯はす中性色素とめ槪め色素鹽基の鹽にして亞爾加里に逢ふときは一種の反應を呈す例へばロザアニリン鹽はアルカリに依て鹽基を沈澱すれどもサフラニン溶液は然らざるが如し亞鉛及び還元劑に依ては槪め色素は無色となれども茲に生ずる成生物は種々なり例へばアゾ色素は全く分解して再び色素を得るとに至れども他の色素はLeuko Basenとなりて久しく空氣に晒すか若くは酸化劑を用ゆれば再び之れに還りて色を現はす此色素に屬する者は「ローザアニリン」色素なり第三屬に屬する色素も還元劑に逢ふときは亦無色となるものにして茲に成生する物質は亞爾加里溶液なれば空氣と觸れて速かに元色素に歸る例へば「サフラニン」の强ズルモール液に加里鹽液を加へ亞鉛を投じて溫むれば速かに無色となり但コルベン中にて還元し栓を閉じて空氣の浸入を防ぎ煮沸すれば無色となる冷栓を開けば全く還るMag alarothも亦然り右の外Maurein chysanilin incladinの如きも然りMethylen brauは其力少なしアゾ物質を還元すればアゾ物質中に窒素は元物に歸りアシード鹽となる茲にスルホを含むときはスルホ酸に變す亞鉛に代ふるに亞鹽化錫を用ゆればアゾ物質も亦還元され錫は硫化水素に依りて除去することを得べし鹽基は亞爾加里溶汁を加へてエーテルにて振盪すればエーテル中に入りスルホ酸はアルカリ中に殘留すべし

色素分析表（轉載禁ず）

日生影生

紅色

品種	水	アルコール	鹽酸	硫酸	苛性曹達	安母尼亞	鹽酸性液にエーテルを加ふ	前エーテルにて取し之にアンモニアを加ふ	前液にアルコールを加ふ
コンゴレット	溶	溶	藍紫色に變じ苛性曹達にて維色	同上	不變	同上			
スカレット	溶	不溶	不變	同上	殆んど不變同じく褐變する	不變	不溶	變化なし	
スカレット	溶	溶	暗赤	青紫	暗赤	同上			
カルマイン	不溶	不溶	不變	同上	稍帶紫	同上	僅溶	僅紫	
コチニール	稍不溶	溶	不變	同上	同右	帶紫	不溶又は僅溶	微紫	
美人糊印クロキシン	溶	溶	褐澱す液希薄なれば褐色す	同上	不變	同上	沈澱溶解シテ液無色となる	紅變	螢石粉あり
馬大印フロキシン	溶	溶	同右	同上	不變	同上	同右	同右	同少しく右
エオシン	溶	溶	同右	同上	不變	同上	同右	同右	同右甚し
キジ印エオジン	溶	溶	褐澱す液希薄なれば褐色く	同上	不變	同上	同右	同右	同右
紅花紅	同右	同右	同右	暗赤	同右	同上	不變		
蘇粉	右同	同右	不變	不變	濃色	同右	同右	一部分溶解す	紅變
猩脂	同右	同右	赤褐色	赤褐色	微紫	同上	同上		
ポールト	同右	同右	暗紅	紫色	赤褐色	同上	同上		

赤色

品種	水	アルコール	王水	固有反應	同上
朱	不溶	同上	溶	王水液を銅面に點ずれば水銀析出す	同上水銀を熱すれば揮散す
溶	右同	同上	溶	王水液の銅面に熱すれば鉛析出せず	木炭上に吹管にて熱すれば鉛析出す
辨柄	右同	同上	溶	王水液に黄血鹽を加ふれば藍變す	ロダン加里を加ふれば血赤色を呈し

黄色

品種	水	アルコール	鹽酸	硫酸	苛性曹達	安母尼亞
ウキョミン	溶	同上	冷時不變熱時褐色	褐色	白濁之が稀薄なるときは澱せず	稍褐色
ナフトールエロー	溶	同上	少しく薄らぐ殆んど褪色	同上	不變	同上
金花色ヲレニロー	溶	同上	不變	不變	帶赤	同上
クルクマ	稍不溶	稍溶	薄らぐ	色薄らぐ	褐色	同上
ズミ	溶	同上	少しく薄らぐ	不變	同上	同上
山梔子	溶	同上	不變	不變	同上	同上
キハダ	少しく溶解す	溶	不變	不變	少しく褐色	不變
鶏印黄色	不溶	溶			不變	
ファストエルロー	溶	同上	紅褐色	同上	不變	同上

鹽酸を加へたるものにエーテルを混じ後之を分取して安母尼亞を加ふるに黄色になる苛性曹達を加ゆ依的兒を混じ後之を分取して鹽酸を加ふるに變色す又之に水を加ふれば黄色復く水に移る又曹達液を加ふれば原色にしてエーテルに移る

苛性曹達を加わたる者にエキルを混ずるに溶解して黄色となる之れに醋酸を加ふれば不變又水に稍染せず

○鹽酸モルヒネ注射取締に就て

五月中の韓國各道警記官會議に於て鹽酸莫兒比涅注射取締に關する件を審議せし當局者の言によれば韓國民殊に淸國領に接する地方即ち鴨緑江豆滿江沿岸の住民は淸國人の阿片吸用に感染し其の害毒を被れる者夥多なるが近來淸國に於て阿片の吸用を禁じたるため韓國への輸入も隨て減じたる結果阿片吸用と同一の麻醉を覺ゆるモルヒネの注射をなす者漸次多きを加へ其の害毒の甚に懼るべきものあり而して韓民がモルヒネの注射を以て阿片の吸用に代ふるに至りしは阿片中毒に罹れる者が外國宣教師の醫を兼ぬる者の診察を受け其の應急治療としてモルヒネ注射を加へられ阿片吸用と同一の感覺を與ふるより其の注射が阿片吸用に代る事を知り果ては賣藥行商より藥品注射器を購求して自ら注射をなすに至りたるものにして此の際其の取締を嚴にするの必要あり故に其の方法に關し道警記官會議に於て審議したるなりと云ふ

他山の石（前號續き）

私は初めに先づ清國内地視察の考にて彼の地に渡航しまして上海近傍の片田舎より漢口近約四ヶ月を費やしまして其風俗人情を調査しましたが此處に訪問の意を通じて一般俗人の耳目となるべき階級の者は如何なる人々であるかと細心注意しましたが夫れは堂々と飾りたてられたる位階地位共に高かき官人ではありません換言しますれば常に附近の民衆を話し相手とし偶々日々を送つてをる讀書人其人々でありました夫れ等の讀書人と云はれる人は比較的文字の有る人々でありまして古文や又時文を讀み破り讀み去り之を口語として民衆に話をして居ります則ち云へば話の問屋とでも云ふべき人々であります而して此の如き讀書人は清國内地至る處の各村邑に澤山ありますが彼等とても生れながら讀み書き出來る物ではありません大抵生れて六七歳になりますと男女席を同くせずとか申しまして此の年輩の時頃より男女の區別が六かしくなりますそうして女の兒は猥りに男の中に遊びません又男の子は此時より寺子屋の如き處に通ります處で是等の教師となるべき人は則ち村夫子其人でありまして郷黨の尊敬限りなき人であります三尺去つて師の蔭を踏まずとか申します如く例へは表面丈なりとは云へ村夫子の陰勢力は大したものであります其處で私しは少しく狡猾であつたかは知りませんが私しの商業の賣り出し廣告に此の村夫子を利用せんと考へ起しまして色々と店員と相談の上次の如き方法を取ることゝしました

則ち各村落の出口入口又は迷ひ路の邊に道しるべの標を立てました此の標には一面には各村邑の行途を示めし一面には其村邑の名高かき村夫子の名を記るし更らに一面には我が商品の名と大販賣處の名を記しましたさあ此くなりますると各村の住人は己れ等が平素尊敬する村夫子の名が誰でも分明なる處に建てられたる標の表面に記されてあるものですから大に喜びを以て此等の木標を迎へて呉れました人の話によりますと或る處の標には線香や備へ物のしてある處もありました從ひて標は至る處多くの人の注目する處となりまして次ぎには商品名も多くの人々に知らるゝ樣になりました

然かし此時には商品販賣の準備がまた出來て居ませなんだが各販賣店には價客より注文が澤山參ります夫れで販賣店では私の本店に至急品物を發送して呉れろと申して參りますし初めから商賣に此の如き景氣の善き事はありませんでした

然がしながら此時は唯云へば廣告の第一期とでも申す時でありまして之れから第二期三期と廣告を要する時機でありました御承知の通り廣告と云ふものは勿論商品の種類にも寄りますが一時に盛大にした處では何にもなりません何分かは效力がありましたにしても夫れは甚だ損なるやり方であります如何と申しますると人が其名を記憶するに至りますまでは續ける事でせなければなりません一例を申しまするど東京の長瀨さんの花王石鹸のやり方などは甚巧妙なるものでありましたが今日では恐くば彼の品程世の中に連がと知られて居るものはありますまい話が少しく横途になりましたが兎に角私しは第三期の廣告をしました是れは店員安部氏の發意でありましたが青赤黄等十數種の色紙に古文や駁文や時文で之々同じ意味の事を記しまして月々の市日や其他人出の多き日を期して各村に配布しました之れが又非常の人氣を得る事となりました夫れは時文で書きたるを配布しました日は大抵讀めますが古文や駁文で書きたるを配布した日には讀めない人もあります此時は人々は之を平素知り合ひの讀書人や村夫子に讀むで貰ふのでありますそこで此業の讀書人は今こそ己れの讀書力を世人に示めし賞贊の辭に預からむ物と半ばは自慢に半ばは親切に讀み聞かして得意でありましたる事情から御蔭を以て彼等は私の商品の生きたる廣告書となつて呉れまして思ひの通り第二期の廣告術も成効しまして店の爲めには大なる幸福を得ましたが目下は第三期の廣告時期に移りて居りますが之れは彼の地で同業の外商等との關係も有りますから暫時其發表は御斷はり申しまするが自分の内身では又成効の鐵かなる事と信じて居ります兎に角日本商人として世界の大舞臺で秘實をつくして廣告の藝題を演じて居りまするのですから苦しき場合も有りますが又面白き事も中々であります要は日清貿易の隆盛を祈ると共に日本藥商の腕前を世界の表に示したいのであります

私の考では韓國は清國とは風俗人情も異なりて居りまするし世界の商人も餘り入り込むで居らぬ樣に思はれますが廣告と云ふ事は未開の土地程是非必要かと思ひまする後日如何なる競走者が發現しますとも已に自己の商品名が多數の人々の記憶に止まつて居りましたならば已に其人の商業のやり方は第一着の勝利を得て居る物であらふかと私は考へます私は在韓日本藥商諸氏が今一氣の御奮發が願ひたいのであります生れたばかりの京城藥報に對して何等の此許の辭もありませむが兎に角藥界の明星ともなり連鎖ともなりて益々健全に永へに發育せられむ事を希望致します

韓國藥の界人（中）

芦の家主人

●荒木武治君　壽生堂藥房と問はゞ知らずと答へん、石部の堅穴と尋ぬれば直ちに彼の人かと思はしむる程の人隔つて融通の利かぬ事も餘り他に類なし胸中一物の野心なく見へ唯顧客大切に勉業する處、兎に角手堅い店舗とても云ひ得かよ

●井口平治君　ハイカラに見へて案外ハイカラ流を做ふ者を井口順生堂藥房とす、其賑はしき店頭は客の次に客を以てする程の繁盛を見る、多能多才の君は之れに飽らずして或方面にも計策を廻らしつゝありと聽く、實に君は京城藥業家中の策者なり、然れども其策畧は屢々成派をして嫌怒たらしむるものあり願くば多能の君活眼々總てに配り君が獨特の術策を施されん事を君の爲切に祈る者なり

●北島倍三君　仁川藥業家中新井虎太郎君と並び稱さるの君萬事拔目なく立廻はるに斯界の才腕と云ふべく唯惜むらくは度量の狹少なる點を、

漢城衛生會の事業

京城及び龍山の衛生設備を完全にして土地の健康を保持する目的を以て設立せられたる漢城衛生會は準備委員に於て諸種の調査を遂げ既に實行委員を囑託したる事は報導し置きたるが同委員の一人の談によれば同會本年の事業は第一に糞尿塵芥の處分第二に下水の浚渫にして糞尿塵芥の處分に關しては先づ各戶に糞尿塵芥箱の設備をなさしめ且現今の共同便所三十個所を修理し新たに二十個所の增設をなし七十臺の馬車及び民團役所並に警視廳に現在する衛車に尙五十臺を新調したるものを以て約五百人の常用人夫を用ひ糞尿は城外に溜池を設けて搬出し塵芥は燒却場を設けて灰燼となし兩者を混して水分を蒸發せしめ混合肥料を作製する設計にて之に要する馬七十頭は石川縣產のものを軍司令部に委託して購入し馬車七十臺衛車五十臺糞桶三千個及び其の附屬要具は入札の上新調する筈なり下水の浚渫は先づ住地下水道を設備せしめて地先下水道に連通し地先下水道は現在のものを修理して其の疏通を圖り經費の都合上本年度に於ては新設及び大修理は着手せざる方針なり而して同會の事業は日韓人に適用せらるゝ法規に基き經營せらるゝものにして其の他の外國人に適用する事を得ず淸國人の如きは城の內外各所に散在住居せるを以て日韓人家の設備を完全にするも此等淸國人家に於て何等の設備をなさゞるに於ては一般衛生の目的を達するを得ざるが故に目下淸國領事に向ひ同國人をして同會の事業に加入すべき樣交涉中にて同領事も本會の事業を賛し同國人に向ひ此の公共的衛生事業に加入すべく勸誘に盡力せるを以て何れも加入すべしと云ふ因みに同會は土地の健康を保持する目的とするものにして糞尿塵芥等を目的とするものに非ざれば從來肥料のため汲取りつゝある者其の他汲取を希望する者には同會の命ずる方法に據れば何人にも許可する方針なりと

○漢城衛生會經費　漢城衛生會は實行委員を囑託したるが委員部を警視廳內に設け近々事業を開始する筈にて其の經費中約四万圓は漢城府民より徵收する事となり居れるも事業開始度に徵收するは不都合とし先づ昨年日本皇太子殿下より漢城衛生事業のために御下賜相成りたる金三万圓及び韓國政府よりの補助金を合して十万圓を本年半ケ年分の經費新設備費共に充る事とし目下度支部に交涉中の由なれば不日確定支出を見るべし尙日本居留民團にて徵收しつゝある衛生費は漢城衛生會に交付し淸國居留民も合同する方針にて目下淸國領事に交涉中なりといふ

○漢城衛生會實行委員　漢城衛生會實行委員長は法規の結果として丸山警視總監其任に當り以下委員八名今回左記の通り本內會長より囑託せり

警視　永谷隆志　警視　村上則貞
警視　登賀　寬　警視　桐原直吉
技師　奧貫典助　警視　濱島平松
警視　靑木戒三　警視　呼子友一郎

○漢城衛生會の馬匹購入　漢城衛生會の糞尿塵芥搬出に要する馬匹は軍司令部に依託し購入することゝなり交涉中なりしが愈々交涉纏りたるを以て石川縣產馬七十頭を購入する事となり受領の爲め近々技術者を同縣に派遣し來月二十日迄に輸送し來る筈なり尙同會に要する馬車其他の器具も既に見本品を調製したる由にて近々入札に附せらるべし

○漢城衛生會用具の入札　漢城衛生會にては京城龍山の衛生設備を完ふするに要する馬車及び衛車百臺桶三千個塵埃箱約七十其他掃除用器具一切の購買の爲め去月二十五日警視廳に於て公入札にに附したる由尙東大門外西大門外阿峴麻浦に新設せらる可き糞尿處分場塵埃燒却場の建設も近々入札に附する筈なりといふ

○漢城病院の運動會　五月十日漢城病院職員一同は麻浦川岸に於て運動會を開催し職員四十名其他來賓と合して約六十名にして會場は天幕及萬國々旗を以て飾り午前九時一同集會するや直に數番の綱引競爭其他運動あり午後は網曳等にて興を添へ午後五時散會歸路は小舟にて龍山に渡り電車にて歸院せられ職員一同非常に愉快に一日を送られたるを見受けたり

○大韓醫院の運動會　大韓醫院在勤の職員は五月廿四日の日曜も同院附近の馬頭山にて運動會を催ふしたりと

○伊藤藥劑師　農商務省及び大阪府の囑託により大阪製藥同業組合より選拔せられて藥業視察のため清滿韓國に出張せられし藥劑師伊藤幸次郎氏は四月三十日夜入京し韓國京城の主なる病院及び日韓藥業家を訪問し視察せられつゝありしを以て有志相圖り氏を歡迎せんと準備中突然五月三日午後十時の南大門發にて歸阪せられたるが遺憾なれ氏よ滯在中の

○鈴木日本藥學會書記長の入京　日本藥學會の活暦と呼ばれし藥劑師鈴木正肥氏は滿韓視察の途上五月四日入京當地の洋酒屋大西組へ滯在し京城を隈なく視察せられて五日大韓醫院に兒島藥學士を訪問し五日夜兒島技師は官舍に氏を招待し晩餐を饗せらる六日午前漢城病院を視察し賓王城を拜觀し近藤藥劑師は氏を巴城館に招待して晝食を共にせられ六日午後六時前記他の在京知己諸氏は氏を巴州亭に歡迎會を催ふし東京藥學の狀況及日本藥學會の現況等につき談話を乞ひ大に我國藥學の狀況を知るを得たり

來會者は正賓鈴木藥劑師鳥居度支部技師板垣大韓醫院藥劑官武川統監府技手古賀士井漢城病院藥劑師等にて突然の催しのため多數集會する能はざるは鈴木氏に對して謝する處あるも主客共に充分の歡を盡して午後十時散會す同氏は翌日南大門發平壤に向ふて出發鳥居技師古賀藥劑師大西組員等は見送られたり

○六博士の賣藥研究　は斯學の泰斗たる六博士の編述に加ふるに靑年藥學士たる慶松朝比奈氏等の新研究の材料をも收めてあるとの事なれば賣藥を研究せんとする士の好伴侶ならん發兌元は東京神田猿樂町二丁目春泥書房なり正價二圓

○藥舖繁榮策　は米國藥化學士藥劑師川崎近雄氏の著にして藥舖の經營及び營業の案内等を精密に論述せられたる良著なり正價八拾五錢發行元は大阪の同濟號書房なり

○藥業時論　京都在住の藥業家相謀りて藥界の爲め盡瘁せんとて發刊せられたり其論說皆時機に適し體裁良好にして美術地たる西京を偲ばしむ其前途遼遠なり願くば健全なる發達を遂げられんことを

○淡路衞生新報　淡路在住の藥業家諸氏の熱心なる盡力によりて成る益々衞生藥業の爲め奮碎せられんことを切に祈る

○北韓衞生新報　韓國衞生開發の爲め發行せらる新聞にして京城に日韓衞生新報あり北韓に北韓衞生新報あり誠に韓國衞生界の爲め進さるゝを喜ぶ願くば健全なる發達を望む

○碧草雜誌　三木齊堂氏主幹たりし同誌は談論學說評林雜爭と項を分ちて體裁は極めて良く出版出來上りしに不幸なる哉新聞規則により發刊し難き事情ありて遂に一番庫に藏するの已むなきぞ吾人は韓國藥界の爲め同業新聞の爲め氣の毒の至りなり

新刊寄贈

道修藥報	大阪　同社
草樂新聞	大阪　同社
東京實利貿易商報	東京　同社
東京藥事新報	東京　同社
九州藥報	博多　同社
廣島藥報	廣島　同社
藥業時論	京都　同社
北韓衞生新報	咸興　同社
淡路衞生新報	淡路　同社
廣島衞生醫事月報	廣島　同社

○藥局備考（今井亥三松編）　廣島衞生醫事月報社より寄贈せらる就て見るに藥局常に貯藏を要する藥品極量配合禁忌法定藥品名等を親切に記述せらる眞に藥局備考として一日も欠くべからざるもの座右に供へ置けば立ち處に極量禁忌等を知るを得るものなり

商況

五月の藥業界は多少とも活氣を呈したるが如く見受けられ官衙病院等にては買入れありたるに依り二三の大藥房は其需用に應ぜんと多忙を極めたる模様なり暴徒も今回又討伐あるとの事なれば愈々鎮定するも近きにあり

賣藥は賣れ宜き時季となり殊に淸涼劑の世の中となりしを以て各淸涼劑、仁丹、寶丹、淸心丹、千金丹等にてそれ〳〵運動廣告を勉められるもの〻如くのみどり粉は非常なる勢にて賣れ捌く時候となれり

藥品にてはタガチャスターゼのガッムもなきため困りし藥店もありしが如し新藥類は却て內地よりは多く使用する傾あり

○安非藥劑師　二三年前鐘路に於て藥局を開き一昨年來機を待ちし安非氏は愈々五月中旬より京城に開局し傍ら氏獨特の賣藥を擴張せらるゝと氏の如き經驗ある藥劑師の開業は韓國藥業開發上大に資する所あらん

○五月中入京せし藥學業家　は大阪藥劑師伊藤幸治郎東京の藥劑師鈴木正肥大阪の藥劑師石津作次郎氏等なり

○日本藥劑師會有功會員推薦　日本藥劑師會にては左の十二君基本金として寄贈申込まれたるを以て會則第十九條第一項に基き有功會員に推薦せられたり吾人は日本藥學會に巨額の基本金あるに反して同じく藥界の牛耳を取れる日本藥劑會の經濟を思ふ每に前途の活動を稍々あやぶみしに斯界の先覺は奮ふて巨金を寄贈せられしぞ實に同會の發展上資する處大なるを喜び同會の盛大なるを祈るものなり

一金百圓　東京　丹羽藤吉郎
一金百圓　東京　池口慶三
一金三百圓　東京　下山順一郎
一金二百圓　東京　志村初七郎
一金百圓　東京　野田虎五郎
一金二百圓　東京　丹波敬三
一金百圓　東京　山田董
一金百圓　東京　溝口恒輔
一金三百圓　東京　高橋秀松
一金百圓　東京　青柳辭一
一金百圓　東京　龜田通太郎
一金百圓　東京　田原良純

○日本藥劑師會　四十年度決算報告左の如し

一金三千二百八十八圓〇六錢九厘　總收入高
一金二千九百四十一圓二十一錢九厘　總支出高

收支決算
一金三百四十六圓八十五錢　過剩金

基本金報告
合計金一千三百六十七圓二錢九厘
金三百六十圓二十錢　公債購入
差引金一千〇〇七圓二錢九厘

有價證券の部
一金八百九十圓　公債金額現在高

○水道工事完成　京城に於ける水道工事は殆んど全部完成し今一ヶ月の後には工事請負者たるコールブラン氏より倫敦水道會社に引渡しを爲す筈なるが水道會社にては本月中に給水料金等を規定して市內各戸に配布し申込に依つて直に各戸に水口栓を備付くる等配水の準備をなす由にて今二ヶ月の後には該水道の水を使用し得るに至るべし

○長井博士の名譽敎授推薦狀　我國藥業界の泰斗たる理學博士藥學博士長井長義氏は今回北米合衆國フキラデルフキア藥科大學より名譽敎授の推薦狀を贈り來れり明治二十六年五月には下山博士を名譽校員に推選し今亦長井博士を推薦せらる本邦藥業界の最大名譽なりとす左に推薦狀を譯載すべし

フキラデルフキア藥學校は長井長義の藝能及學術界に貢獻したる偉大なる功績に對し尊敬の表彰として長井長義を本校の名譽に選擧せり右の選擧を證明する爲め千九百七年十月第一日本校役員は本校の印綬を鈐し各自の姓名を自署するものなり

總理　ホウプード、ピーフ、レンチ
副總理　エヌ、オー、キーン
副總理　ドクトル、リッチャードウキー、マフチリン
幹事　ドクトル、シー、エー、ウアイデヤン